☆☆60 tell 人 to 構文（不定詞応用）

四角語句を、線の上に練習するでごんすよ。

320(3)の **her**、(4)の **him** は、文**前半の人の、代わり**（代名詞）である。このように**代名詞は、日本語に訳さない**ほうが、自然な日本語になることが多い。※ただし、最初から無視するのではなく、訳してみて、不自然ならば…（右へ）

スルーする。という意味である。最初から理解を放棄する、ということではない。

主語＋**tell 人 to** ～：主語は**人に言います**（言いました）。**～するようにと。**

Aki tells me to study.
まず、人まで訳す。
赤：亜紀は私に言います。
次に **to** 以下を「～するようにと」と訳す。
緑：勉強するようにと。
この流れで意味をとります。
亜紀は私に言います。勉強するようにと。

問題３２０　右のやり方で訳しなさい。ただし**青は訳さない**。

(1) I told him to run.　※told：言いました。

赤線：

緑線：

tell 言う, make 作る などの第四文型の文, 接続詞の文, 間接疑問文の文：これらの文法では、よく代名詞が来ます。代名詞なので２回目の登場です。英文の意味をつかむ場合、登場２回目である代名詞を、無理に日本語にしなくて良い。私はこう思います。※my,your などの所有格は、悩みどころですが…。※英語にする時は、自分で補います。

(2) My mother always tells me to read books.

赤線：

緑線：

(3) Aki told me to make **her** lunch.（お弁当）

赤線：

緑線：

(4) My brother（弟）often tells me to tell **him** a story of Momotaro.

赤線：

緑線：

(4)**tell him a story of Momotaro**
人　物
「人」にあたる **him** ですが、２回目の登場ですので、日本語に訳さなくても良いです。
tell a story of ～：～の話をする

問題３２１　文を完成させなさい。

動詞は、「直前の人」が行為者。
I tell him to run. 走るのは「彼」だ！

(1) 私の母は、私たちに言います。新聞を読むように と。

My mother _____ us _____ _____ a newspaper.

(2) 私は息子に言いました。自分の部屋をそうじするように と。　**誰の部屋？↓**

I _____ my son _____ _____ _____ room.

(3) 太郎は私に言いました。夕食を作るように と。　**この「人」↓は, 主語の太郎?or 私?**

Taro _____ me _____ _____ _____ dinner.
第四文型の動詞　人 him か me　物

Aki tells me to run.
↑亜紀　↑言う　↑私　↑走る
英語は、このような関係性になります。

(2)は、誰の部屋ですか。親御さんの部屋？それとも、息子さんの部屋でしょうか。

国語２４：イコールをつかむ。「同じ」とは、どういうものかを感覚でつかむ。

問題：「たくましい空想」とありますが、詳しく述べた部分を、十五字で抜き出しなさい。

答え：「事実から離れて自由に考えること」。

まずは、中心語句である「空想」とイコールの言葉を探し見つけるのがステップＩです。「自由に考えること＝空想」ですね。

次は、「詳しく」とありますので、残りの七文字分を、周辺語句から探して付け加えます。注意ポイントは、漢字込みで七文字です。読みではなく、書きの文字数である点、地味に注意です。

以下で、イコール関係の盲点をお話します。

● 「です」の法則：Ａは Ｂです。のように、「です」があれば、Ａと Ｂはイコール関係です。

「走ること（A）は健康にとって、重要な要素（B）です。」という一文があるとします。では問題です。

設問：重要な要素（B）とは何（A）ですか。

答え：走ること（A）。

出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

● 逃げたいのは、戦っているから。転んだのは、進もうとしたから。

☆☆60 ask 人 to 構文（不定詞応用）

四角語句を、線の上に練習するでごんすよ。

I asked Taro to make me dinner. 「私が頼んで」、「太郎が作る」関係です。
主語　述語
※make の行為者は Taro です。この Taro を、「意味上の主語」と言います。右へ。
動詞は、直前の人が行為者です。ask したのは I で、make するのが Taro です。

主語＋ ask 人 to ～：主語は 人に頼みます。～てと。

Aki asked me to make her cakes.
まず、人まで訳す。
赤：亜紀は私に頼みました。
次に、to 以下を「～てと」と訳す。
緑：ケーキを作ってと。
（her は、日本語にしません。）
これで意味を取りましょう。
亜紀は私に頼みました。 ケーキを作って と。

Aki asked me to make her cakes.
亜紀 頼んだ ↑ 私 ↑ 作る 人に 物を
to を挟んでの前後が、
「主語、述語」の関係になります。

問題３２２　文を完成させなさい（青は訳さない）。

(1) I asked my mother to make me a cake.
私は母に頼みました。[　　]と。

(2) Did you ask Aki to teach you math ?
あなたは亜紀に頼みましたか。[　　]と。

代名詞を訳すと、不自然な日本語になることが多いので、(1)my と me、(2)you は、日本語にしないことがお勧めです。
※所有格：家族が続く時、訳さないことが多いです。

問題３２３　文を完成させなさい。

(1) 久美は太郎に頼みました。 夕食を作って と。　この「人」↓は、主語の久美？or 太郎？
Kumi ＿＿＿ ＿＿＿ ＿＿＿ ＿＿＿ ＿＿＿ dinner.
第四文型の動詞　her か him

(2) 太郎は亜紀に頼みましたか。 数学を教えて と。　teach　この「人」↓は、主語の太郎？or 亜紀？
Did Taro ask ＿＿＿ ＿＿＿ ＿＿＿ ＿＿＿ math?
第四文型の動詞　him か her　物

主語と「人」は同じ人です。
その理由は、以下です。

人のあとで区切り、前半後半に分けて理解します。
（例） Taro asked me to make him dinner.
前半　後半
Taro asked me　↓ツッコミ↓
太郎がオレに、頼んできたんだよね～。（ん？何を？）
to make him dinner.
夕食を作ってと。
to 以下の代名詞は、訳しません。
まとめると、
「太郎は私に、夕食を作るよう頼んできました。」となります。

to 以下の「人＋物」の「人」は、主語の人です。
例１　I asked him to make me dinner.
私は彼に頼んだ。夕食を作ってと。
例２　Aki asked Taro to lend her his pen.
亜紀は太郎に頼んだ。ペンを貸してと。
第四文型の動詞の後には、「人＋物」が続きます。
この「人」が代名詞の場合、「人」は、主語自身である。
ということです。「法則は絶対」ですので、
問題 323 は、この考え方で取り組んでみてください。
ちなみに、例１は I で me、例２は Aki で her です。

国語２５：脱文挿入は、挿入する文中から、キーワード（場面を表す語句）を見つける。

設問：次の連続した二文が、文章中から抜き出されている。入るべき箇所を選び、二文に続く文の、最初の五字を書け。

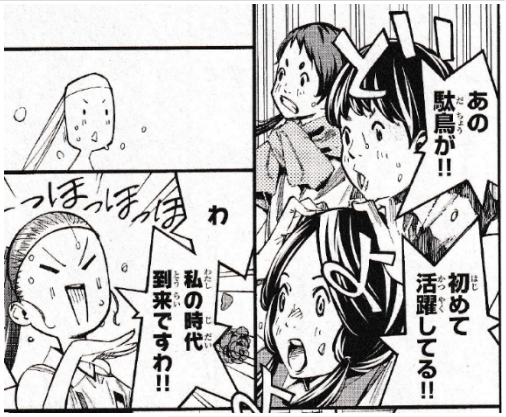
信一にとっては、雪のトンネルは初めてではない。数年前の冬にも見た。

脱文挿入対策のポイントは２つです。
まず、脱文中からキーワードは決めることです。ポイントは、場面を表せそうな語句を見つけ決めることです。目的は、場面を特定したいからです。「雪のトンネル」が良さそうですね。

そして次は、「雪」「トンネル」が話題となっている現場へ行って読み、脱文を当てはめて行きます。

ポイントは、「時制（過去，現在，未来）」です。意味で勝負しないことが大切です。意味だと、「こっちも良さそう。あっちも良さそう」と思えてしまうからです。

次の次のページに、実際の本文を書きましたので、引き続きお読みください。



出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

泣きたいのは、努力してきたから。悔しいのは、勝ちたいから。

☆☆60 want 人 to 構文(不定詞応用)

四角語句を、線の上に練習するでごんすよ。

tell,ask,want の 3 つは、後ろに「人 to～」が来ます。
この 3 つは、「人まで訳して」いったん切ります。
（例）Taro wants me to make him cakes.　右に続きます。→

左の訳：太郎は私に望みます。
ケーキを作ることを。です。

主語＋ want 人 to ～：主語は 人に望みます。～することを。

I want you to be a soccer player.
まず、人まで訳します。
赤：私はあなたに望みます。
次に、「え、何を？」とツッコミを入れてから、to 以下を訳します。
線：なることを。
まとめ：「私はあなたに望みます。
サッカー選手になること を。」

I want you to be a soccer player.
私 望む　↑　↑
あなた　なる
英語は、動詞の直前の人が「行為者」になります。よって want するのは I で、be するのは you です。

問題３２４　文を完成させなさい。

(1) 私は彼に望みます。夕食を作ること を。

I _____ him _____ _____ dinner.
彼　作る

(2) 私は彼に望みます。先生になること を。

be か become：～になる。

I _____ him _____ _____ a teacher.

(3) 私は彼に望みました。ケーキを食べること を。

I _____ him _____ _____ cakes.

(4) 母は私に望みます。テニス選手になること を。

My mother _____ me _____ _____ a tennis player.

(5) 次郎は久美に望みます。本を貸すこと を。

Jiro _____ Kumi to lend _____ _____ book.
次郎　望む　久美が貸す（貸す）　人　所有格

🌸2回目（代名詞）は訳さない。
Aki asked me to make her dinner.
亜紀は私に頼んだ。（亜紀に）夕食を作るよう。
※この（亜紀に）は、スルーできます。

(6) I want you to make Aki dinner.

赤線：
緑線：

(7) I want you to be a soccer player.

赤線：
緑線：

(6)について：全員別人なので、それぞれ日本語にしましょう。

(8) Taro wants Aki to lend him her pen.

赤線：
緑線：

him と her は、２回目（太郎と亜紀）ですので、日本語にしません。

出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

● 挫折したのは、挑戦したから。緊張するのは、頑張ってきたから。

☆☆60 tell 人 not to 構文（不定詞応用）

四角語句を、線の上に練習するでごんすよ。

英文は、**not 以下を否定する**。という法則があります。
I asked him not to run.（私は彼に頼んだ。　→ **走らないようにと**）
I didn't ask him to run.（私は彼に頼まなかった。→ **走るようにと**）

このように、文の構造に注目して英文を理解すると、外国語が楽しくなります。

not to ：～しないようにと　✿英語は、**not 以下を否定する** 言語である。

所有格＋家族：訳さない。
所有格＋物　：訳す。
長文で出てきて「流れで理解できる」ならば訳さない。今回のような短文では、訳すほうが無難。

問題３２５　文を完成させなさい。青は…**今回は訳す**。→「所有格＋物」は、訳す。

(1) I asked children not to run here.
私は子供たちに頼みました。[　　]と。

(2) I told him not to eat **my** cake.
私は彼に言いました。[　　]と。

(3) I didn't tell him to eat **my** cake.
私は［　　］。私のケーキを食べるようにと。

書き換えです。 tell 人 not to ＝ say to 人, "Don't ～."
Taro told me not to eat his cake.
Taro said to me, " Don't eat my cake. "
上（太郎は私に、ケーキを食べないよう言いました。）
下（太郎は私に言いました。「オレのケーキを食べるな。」と。）

問題３２６　文を完成させなさい。

(1) 彼は私に言いました。そこへ行かないようにと。
He told me _____ _____ _____ there.

(2) 彼は私に言いませんでした。そこへ行くようにと。
He _____ tell me _____ _____ there.
しなかった　～するように（２語）

(3) Our teacher told me not to run.
＝Our teacher _____ to me, " _____ run ."

(4) Taro asked me not to use his pen.
＝Taro _____ to me, " Please don't use _____ pen ."

(3)(4)対策
" " は、セリフです。
登場人物になりきって訳すのがお勧めです。ポイントは、場面に入り込むことです。

主語 say to 人 , " ～ ."
（主語は人に言います。「～」と。）
●say：言う　said セッド：言った

太郎は私に言いました。
「～のペンを使わないでね」と。

問題３２７　書き換えを完成させなさい。

(1) **Do you want me** to help you ?
あなたは私に望みますか。
＝_____ I help you ?
助動詞

(2) Aki told him not to use her pen.
亜紀は彼に言いました。(亜紀の)ペンを使わないようにと。
＝Aki said to him, "Don't use _____ pen."
この ____ には、↑「所有格」が入ります。

代名詞(her)を訳す時は、「亜紀の」のように、ちゃんと訳します。

国語２５：続き。時制（現在過去未来）に敏感になること。

信一にとっては、雪のトンネルは初めてではない。数年前の冬にも見た。（以上が脱文です）

１文目は現在形です。
２文目は過去形です。

次は本文です。

１文目は現在形です。
２文目は過去形です。
３文目は未来形です。

このことから、
前半が現在形で、後半が過去形になっている脱文は、１文目と２文目の間に入ります。

脱文を入れたあとの、
最初の五字を答える設問なので、「安楽町通り」が答えです。

本来ならこの雪壁を切りくずし、つまり雪ひきして向こう側の雁木通りと行き来できるようにするのだが、それをあきらめ、代わりに雪のトンネルを掘るというのだ。安楽町通りより一本山ぞいの寺町通りで、雪の吹き溜まった箇所をくり貫いたのだ。ただし、その時は一本きりであった。今度は何本も掘るという。

出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

● 不安なのは、勝つ可能性があるから。PK をはずしたのは、蹴る勇気があったから。

☆☆60 say to 人 ”命令文“（不定詞応用）

四角語句を、線の上に
練習するでごんすよ。

to 以下の代名詞は、不自然でなければ、訳さなくて良いです。
（例）Taro asked Aki to make **him** dinner.
（太郎は亜紀に頼みました。夕食を作るようにと。）※**him** を訳さない。

日本語とは、左のように、
代名詞を言わない言語です。

主語 **ask 人 to** ～. ＝ 主語 **say to 人** ,“ 丁寧な命令文.”

say セイ ：言う
says セッズ ：言う
said セッド ：言った

問題３２８ 同じ意味になるよう、完成させなさい。

(1) 太郎は私に頼みました。走ってと。
＝太郎は私に言いました。「走ってください」と。

Taro _____ me _____ run.

＝ Taro _____ _____ me, “ Please run.”

328 対策
“ “ は、セリフです。
登場人物になりきって訳すのがお勧めです。ポイントは、場面に入り込むことです。

(2) 彼は私に頼んできました。助けてと。＝彼は私に言いました。「助けてください」と。

He asked me _____ _____ him.

＝He _____ to me, “ Please help _____ .”

英語の動詞は、直前の人が、
その動詞の行為者になります。
(2) **He asked me ( )( ) him.** では、
彼→頼む。 私→助ける。という構造です。

(3) 太郎は私に頼みました。夕食を作ってと。＝太郎は私に言いました。「夕食を作ってください」と。

Taro asked me _____ _____ **him** dinner.
人に 物を

＝Taro _____ to me, “ Please make _____ dinner.”
人に 物を

(3)make＋人＋物で、
「人に物を作る」です。

(4) 太郎は亜紀に頼みました。ペンを貸してと。
＝太郎は亜紀に言いました。「ペンを貸してください」と。

「誰に」「誰のペン」か、日本語では言わないことが多い例です。
一方英語では、**him her** と、省略せずに言います。

Taro asked Aki to lend **him her** pen.

＝ Taro said to Aki , “ Please lend _____ _____ pen.”

(5) Aki asked Jiro to give **her his** pen.

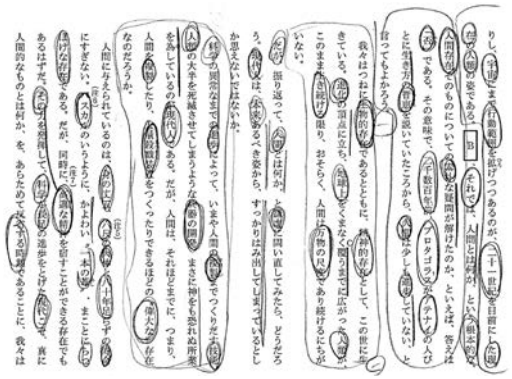
＝ Aki said to Jiro , “ Please give _____ _____ pen.”
人に 物を(pen 含めて)

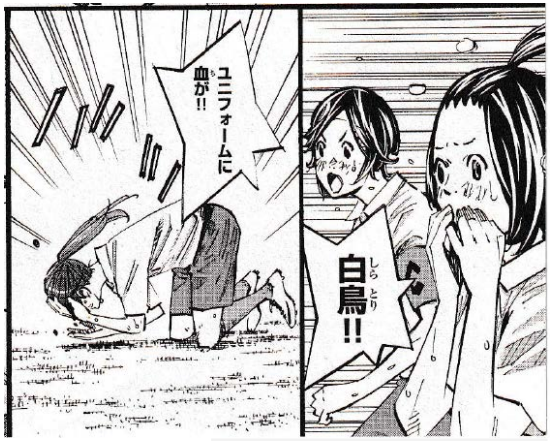
(5)上：亜紀は次郎に頼みました。ペンをくれませんかと。
her（彼女に）**his**（彼の）は、日本語にしなくても伝わりますよね。ただし英語では、「誰に」と「誰の」を、明らかにします。

国語２６：「ぐりぐり」が楽しくて、国語が好きになる子が急増しています。

論説文、物語文対策：本文を読み進める時に、必ずしてほしいことがあります。それは、「ぐりぐり」です。指示語，気持ち，逆接，筆者の意見を表す文末，同じ単語，±語句，イコール，抽象・具体，その他重要語句…。これらがぐりぐりメンバーズです。英語の長文対策でも、役に立ちます。

以下は、塾生のぐりぐりです。





出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

● 信じて進めば、いつだって、未来は味方だ。

☆☆60 say to 人 ”命令文“（不定詞応用）

四角語句を、線の上に練習するでごんすよ。

日本語は、「分かりきっている語句」を言わない言語なんだと、心で理解してください。
（例）ごめん、ボールとってくれない？（ぼくに、と日本語では言わない。）
Give me back a ball, please. （←英語は言う。）

←これが言語の違いです。違うからこそ、**ルールを覚える必要がある**のですね。

主語 tell 人 to ～. ＝ 主語 say to 人 , “ 命令文.”　　say の過去形➔ said セッド：言いました。

国語２７：述語（文末語句）が同じならば、その前の語句は同じ可能性があります。

私たちの心は、やはり、とことんまで、めでたし、めでたしのどんちゃん騒ぎで終わることを要求しています。そんなことは現実にはないかもしれぬが―いや、現実にはないからといって、虚偽だとは言えません。我々の心理がそれを要求しているとすれば、それは③心理的に事実なのであります。

設問 ③はどのようなことか。次のア～エから選べ。

答え エ 毎日楽しいことが起こり、幸福な人生にならないかと願うこと。

それは心理的に事実なのであります。とは、それが心理的に事実とイコールだと分かります。

また、同じℓ５に、それを要求しているとあります。

ℓ２にも、要求していますとあります。

よって、ℓ２の要求より前の語句たちが、それの正体です。

「エ」と、それの正体であるℓ１～２がぴったりです。

※色が対応してます。

出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

問題３２９　書き換えなさい。

(1)　母は私に言いました。夕食を食べるようにと。
＝母は私に言いました。「夕食を食べなさい。」と。

My mother _____ me _____ eat dinner.

＝ My mother _____ to me, “ Eat dinner.”

(2)　亜紀は私に言いました。亜紀の部屋を掃除するようにと。
＝亜紀は私に言いました。「部屋をそうじして。」と。

代名詞を日本語にする時は、固有名詞で言います。

Aki told me to clean her room.

＝ Aki _____ to me, “ Clean _____ room.”

(3)　Aki told me to clean my room.

＝ Aki _____ to me, “ Clean _____ room.”

(4)　Taro told Aki to make him dinner.

＝ Taro said to Aki, “ _____ _____ dinner.”

(5)　太郎は私に言いました。太郎の家に来るようにと。

Taro told me to come to _____ house.

＝ Taro said to me, “ Come to _____ house.”

(6)　Taro said to me, “ Make me cakes.”　書き換えなさい。

＝ Taro _____ me to make _____ cakes.

書き換えは、場面をイメージすることが大切です。グーと考えて、妄想して頑張ってみてください。

to 以下が、第四文型の動詞の時…。

日本語は、省略したほうが、意味が理解しやすい言語です。

（例）太郎は私に、太郎に夕食を作るよう頼んできた。（↑違和感が…。）

「太郎に」が、ちょっと余計ですよね。このように、**２回目の登場語句を省略する**のが、日本語の特徴です。

ですが英語は、Taro asked me to make him dinner. のように、省略しません。よって、日本語を英語にするときは、代名詞（特に人）を補って考えるようにしてください。

「太郎は亜紀に、
太郎に夕食を作るよう言いました。」
これは、代名詞 him も訳した訳です。

代名詞を訳さないと、こうなります。
「太郎は亜紀に言った。
夕食を作るようにと。」
どちらが自分に合うか、あなたが自分で判断してください。

(6) make ＋人＋物：人に物を作る。
上の文の意味は、太郎は私に言いました。「**私に**ケーキを作って」と。ですね。

では下の英文は？「太郎は私に、（　）にケーキを作るよう言いました。」ですね。
この（　）は、日本語では省略されるところ（代名詞）です。「ケーキを食べる人」が来ます。

● 今一番、興味があること。「これからの自分！」。

国語２７：国語のまとめです。
そしてこれからも、まだまだ続きます。

この **No,60** で、国語講座はいったん終わります。26 ものポイントがあり、大変だったと思います。3 回くらい繰り返し読んで、理解を深めていってください。

まだ「動詞・形容詞・形容動詞の活用」「連体詞」「古典」「係り結び」「四字熟語」「敬語」など、国語の勉強はまだまだ続きます。

「国語って勉強することある？」なんて寂しいことを言わずに、これからも一緒に頑張っていきましょう。

ちなみに私の塾は、自立学習教室のため、普段は授業をやりません。よって、解説が必要な長文指導は、「夏期講習,冬期講習と土曜日限定の長文講座」だけです。この半年で、みんな長文が大好きになって、結果得意になっていきます。

大丈夫です。これからもあなたには、英語と国語の楽しさを、たくさんお伝えしていきます。ですので、楽しみに待っていてください。そしてあなたに、こう言ってもらえるよう、私も頑張ります。

長文が楽しくて楽しくて仕方ない―

出典「さよなら私のクラマー」
新川直司氏　講談社　より

６０　不定詞 tell 人 to 構文［解答］

［解答］不定詞 tell 人 to 構文　６０

問題３２０ (1) 赤線：私は彼に言いました。
緑線：走るようにと。

(2) 赤線：私の母は、いつも私に言います。
緑線：本を読むようにと。

(3) 赤線：亜紀は私に言いました。
緑線：お弁当を作るようにと。

(4) 赤線：私の弟は、よく私に言います。
緑線：桃太郎の話をするようにと。

問題３２１ (1) tells / to read (2)told / to clean his（私は息子に、自分の部屋をそうじするよう言いました。）。
自分の部屋とは、息子の部屋ですよね。だから his room です。親が自分のことを「自分」と呼ぶ可能性は、ゼロではありませんが…。
(3)told / to make him

問題３２２ (1)ケーキを作って (2)数学を教えて

問題３２３ (1)asked Taro to make her (2)Aki to teach him　※teach 人＋物：人に物を教える。

問題３２４ (1)want / to make (2)want / to be (3)wanted / to eat (4)wants / to be (5)wants / him her

(6)赤線：私はあなたに望みます。
緑線：亜紀に夕食を作ることを。

(7)赤線：私はあなたに望みます。
緑線：サッカー選手になることを。

(2)(4) **become** も可です。ただ、未来は **be** が多いです。

(8)赤線：太郎は亜紀に望みます。
緑線：ペンを貸すことを。
（緑線の直訳：太郎に亜紀のペンを貸すことを）

問題３２５ (1)ここで走らないように (2)私のケーキを食べないように (3)彼に言いませんでした

問題３２６ (1)not to go (2)didn't / to go (3)said, Don't (4)said / my

問題３２７ (1)Shall　※Shall I ～？：（私が）～しましょうか。 (2) my

問題３２８ (1)asked / to , said to (2)to help , said / me (3)to make , said / me (4)me your (5)me your

問題３２９ (1)told / to , said (2)said , my (3)said , your (4)Make me (5)his , my (6)told , him

ピンチとチャンスがなければ勝負じゃない！　遠回りでも、必ずたどり着ける。きっといつか。